

YU-AP News

Yamaguchi University Acceleration Program

Vol.3
2017年1月号

YU-AP

Vol.3

教育は加速する。



Contents

- 巻頭言 …… 2
- AP事業実績の概要 …… 2
- テーマⅠの実績 …… 4
- テーマⅡの実績 …… 5
- イベント紹介 …… 6
- 編集後記 …… 7

YU-AP推進室からのお知らせ

平成28年9月6日(火)、7日(水) 学生FDサミット2016夏(札幌大学)に参加しました

平成28年9月6・7日の2日間、札幌大学で行われた「学生FDサミット2016夏」に学生3名、教員1名、職員1名の計5名で参加しました。
「僕たち私たちが考える理想の大学」をテーマとし、討論が行われました。全国34大学約200名が26のグループに分かれ、学生・教員・職員がそれぞれの立場からアイデアを出し合い活発な議論を展開し、最後に各グループからの発表が行われました。



平成29年3月2日(木)、3日(金) 学生FDサミット2017春(山口大学)を主催します!

平成29年春、山口大学では、「Borderless Campus～学びのフィールドはどこにある?～」をテーマに、学生FDサミットを開催いたします。
「学生FDサミット」とは、全国の大学から学生FD活動に取り組む学生・教員・職員が一堂に会し、各大学における活動や成果を発表し合い、大学教育における課題等を共有し、議論する場です。全国の大学関係者の皆様、ぜひお誘い合わせの上、ご参加ください。
多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。



巻頭言



山口大学 副学長
福田 隆眞

山口大学は平成27年に創基200周年を迎え、新学部の新設や全学的な組織再編を鋭意進めています。なかでも文部科学省大学教育再生加速プログラムの採択(平成26年度)を受けて、積極的に大学教育改革に取り組んでいます。山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)では、テーマI「アクティブ・ラーニング」、テーマII「学修成果の可視化」の取り組みを通して、①多様な学生すべてに対する能力育成を最大限支援する、②本学の教育システムを学生および社会に質保証できる、③本事業成果を積極的に情報発信し、我が国の高等教育全体の発展に貢献すること、を目指しており着実に成果を挙げています。

平成27年度より導入されたALポイント認定制度では、当該授業でどの程度アクティブ・ラーニングの活動をしているのか、シラバスに明示されることとなりました。昨年度はアクティブ・ラーニングの度合いが高い授業ほど、学生はその授業に対する理解度や満足度が高いことが示されました。本年度はさらに踏み込み、フィールドワークやプレゼンテーションなど、どのような形態のアクティブ・ラーニングがとられているのかを分類し、学部間比較を行うなど、より実態にせまる試みを進めています。

また、ALポイントや学生の授業満足度をもとにアクティブ・ラーニング ベストティーチャーを選定し表彰を行いました。そしてそのベストティーチャーにインタビューを行い、どのような教育目標でどのような形態のアクティブ・ラーニングを行ったのか、またどのように学生に深い学びを促していたのかなど、実践の詳細を共有するためのカタログをつくり教員に配布することで、全学的な教育改善の議論に資することを目指しています。

さらに、YU CoB CuS、学修到達度調査、学修行動調査といった複数の直接評価・間接評価統合型の学修成果可視化モデルの構築に取り組んでいます。そのモデルの一部はすでに学修支援システムに取り入れられており、教員や学生が一目で今の到達度状況を把握できるような仕組みになっています。

山口大学・大学教育再生加速プログラムは、事業開始後3年目にあたり、事業成果を積極的に情報発信するため、「YU-AP News Vol.3」を発刊いたします。今後とも、皆様からの深甚なるご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

AP事業 実績の概要



【アクティブ・ラーニング ベストティーチャーの 表彰】

共通教育におけるアクティブ・ラーニング(以下、AL)の授業実践に顕著な成果を上げた教員を表彰する「ALベストティーチャー表彰制度」が今年度(平成28年度)から新たに策定され、その第1回受賞者の表彰式が平成28年11月9日(水)に行われました。本表彰制度は本学教員の、教育へのさらなる意欲向上と、ALの推進を目的に創設されたものです。

ALベストティーチャーの選定には、前年度(平成27年度)の授業実践のALポイントや、学生の授業評価アンケートにおける授業満足度・理解度・達成度、授業外学修時間、成績評価分布などの指標をもとにした審査が行われました。審査の結果、記念すべき第1回目の受賞者として10名の教員が選定されました。そしてその表彰式が開催され、岡 正朗 学長より表彰状が手渡されました。

今後は、ALベストティーチャーの授業実践をALのグッドプラクティスとしてインタビュー調査や授業風景の撮影を行っていきます。そこから明らかになったALの手法や教材などの情報を、教員が手に取りやすい冊子にまとめたり、Moodleなどを活用して学内での共有をはかり、他の教員が参考にするのできるシステムの構築を進めていきます。



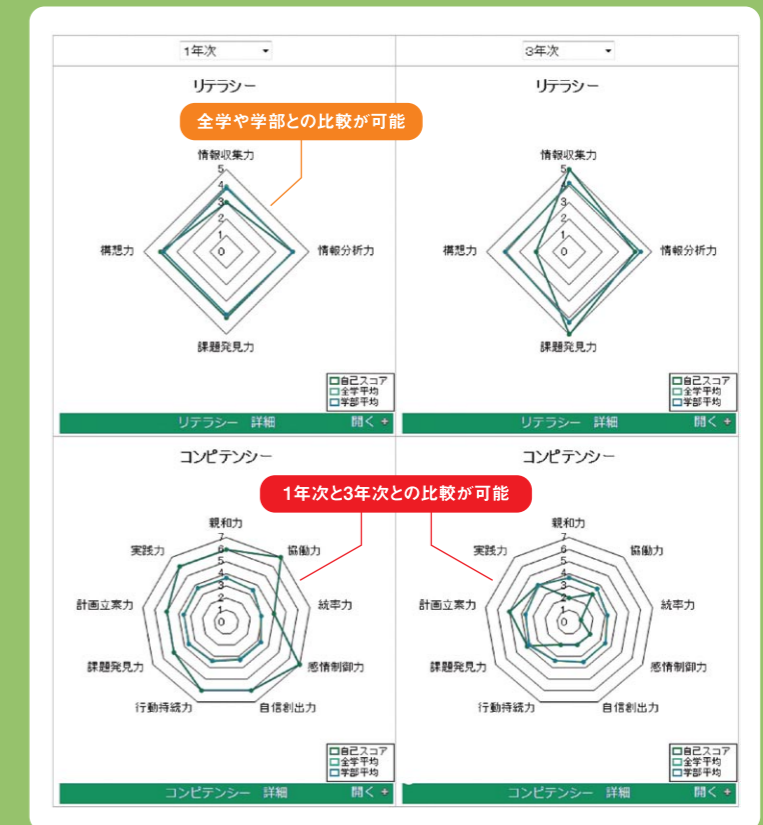
アクティブ・ラーニング ベストティーチャーの授業風景です!

【修学支援システム リプレイスによる 学修成果の可視化】

山口大学では今年度、修学支援システムが改訂されました。新修学支援システムはeYUSDL (electronic system of Yamaguchi University Self-Directed Learning) という名称です。その名が示す通り、学生の自己主導型の学修を支援するための機能が新たに追加されました。そのなかでもeポートフォリオは、GPAやTOEICの得点に加えて、YU-APで実施してきた学修到達度調査や学修行動調査といった多面的に学修成果や学修プロセスを捉える調査の結果をもとに、見やすいレーダーチャートや表などが出力され、現在の到達度状況を学生本人や教員が一目で把握できるようになりました。

当該学生の得点と、全学平均得点や学部平均得点とを比較したり、当該学生の1年次と3年次の個人内の得点の変化がわかるようにデザインされており、これをもとに学生が自律的に自らの学修をリフレクションしたり、その後の学修プランを立案したりできるようになることが期待されています。

新修学支援システム eポートフォリオ出力画面



【平成27年度外部評価】

本事業では、事業の進捗状況や補助金の執行状況を評価するために、事業内容に精通した大学関係者、高等学校関係者、企業関係者によって構成される「外部評価委員会」を設置しております。

平成28年3月24日(木)に開催された平成27年度外部評価委員会では、計画が緻密で着実に進められていることに関して高評価をいただきました。しかし、事業課題や進め方に関して、改めて問い直すきっかけとなる講評やコメントもいただきました。テーマI(アクティブ・ラーニング)では、学生の深い学びを促すALの探索の必要性が示されま

した。またテーマII(学修成果の可視化)では、教職員・学生の成長実感の把握の必要性などが挙げられました。

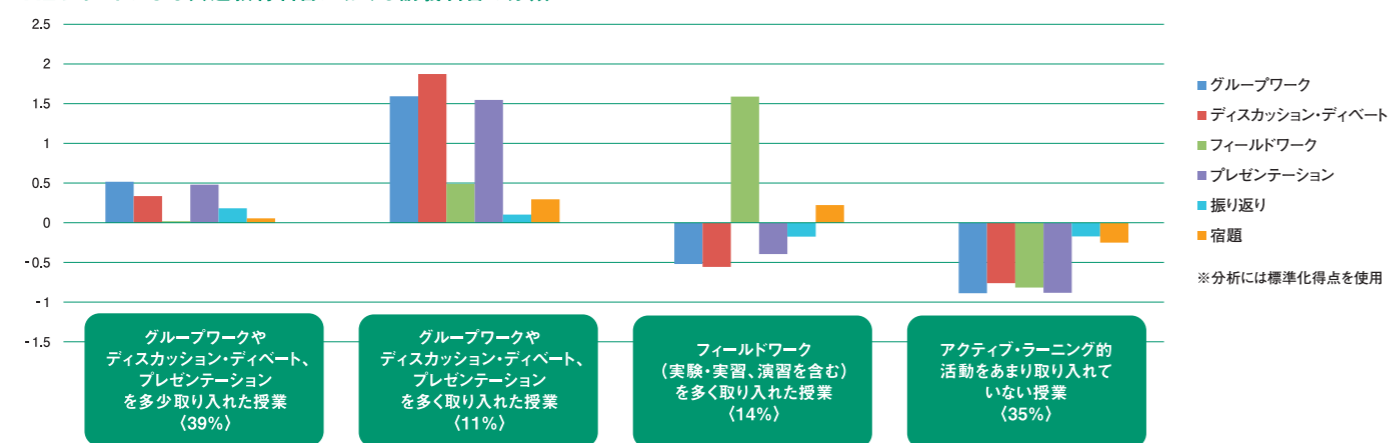
いただいた講評をもとに、事業3年目となる平成28年度は、ALベストティーチャーへのインタビューを実施し、AL実践によって学生の深い学びをどのように促していたのか、その詳細を明らかにする取り組みを進めています。さらに他部局と連携して、大学入学時～在学時～卒業時、すなわち入口と出口をつなぎ、学生の成長や変容を捉えるための縦断的な調査モデルの構築といった取り組みにも着手しています。

テーマIの実績

AL(アクティブ・ラーニング)ポイント認定制度

ALポイント認定制度の導入が2年目となり、ALの可視化やその詳細の把握が進んでいます。共通教育科目では入力率が平成28年度は85.7% (昨年度より5%ほど上昇)と高い水準であり、ほとんどの科目でALポイントがシラバスに明示されていることがわかります。また、専門科目も合わせた全体では昨年度に比べ入力率が20%弱上昇しており、学部にも広がっています。さらに、ALポイントを算出するための6つの指標によって、どのようなALの授業が行われているのか、いくつかの大まかなクラスターに分類することが可能です。たとえば共通教育科目における講義科目では、下図のような4つのクラスターが見出されました。同じ講義科目でも、ALの取り入れられ方が異なることがわかります。今後はこのような大まかな分類を手がかりとして、それぞれの科目のALの詳細を明らかにし、さらなる可視化を進めていきます。またこのようなクラスターの違いによって、学生の授業満足度や到達度、授業外学修時間などに違いがみられるのかどうかを検討し、ALをより良くしていくための方向性を探索していきます。

ALポイントによる共通教育科目における講義科目の分類



SLP(スチューデント・リーダー・プログラム)の取組

ALを前提とした正課外教育として平成26年度から始まったSLPは、さまざまなテーマで10回以上開催されてきました。今年度は【ラーニング・スキル開発】【キャリア開発】【学生企画】の大きな3つの枠組みで6回(12月時点)開催されました。いずれも多くの学生が参加し、高評価を得ています。

【ラーニング・スキル開発】では学生が主体的かつ能動的に学ぶための学びの作法を習得することを目的に、教員が問題解決のためのブレインライティング、KJ法、統計的データ解析手法などをレクチャーしました。【キャリア開発】では学生のキャリア意識を醸成することを目的として、大学職員の仕事の魅力について山口大学出身の職員が話題提供をしました。【学生企画】では山口大学の学生が学生FDに関する検討会を企画し、下関市立大学・岡山大学の学生らとともに活発な意見交換を行いました。



- 第1回SLP【ラーニング・スキル開発】**
5月開催
『すぐに使える課題解決ワークショップ～授業や就職活動などで役に立つ課題解決のフレームワークを学ぼう～』
【テーマ】課題解決のための各種の概念・手法
- 第1回SLP【キャリア開発】**
7月開催
『ふち教えやる大学職員の仕事～大学職員の先輩に聞いてみよう～』
【テーマ】大学職員の仕事の魅力
- 第1回SLP【学生企画】**
9月開催
『学生FDサミット2017春に向けたダイアログ』
【テーマ】学生FDサミット2017春(山口大学開催)の企画プランに関するアイデア出し
- 第2～4回SLP【ラーニング・スキル開発】**
11・12月開催
『問題解決のためのデータ解析』シリーズ
【テーマ】問題解決に有用な統計的解析のスキル



【ALポイント】 Active Learning Point

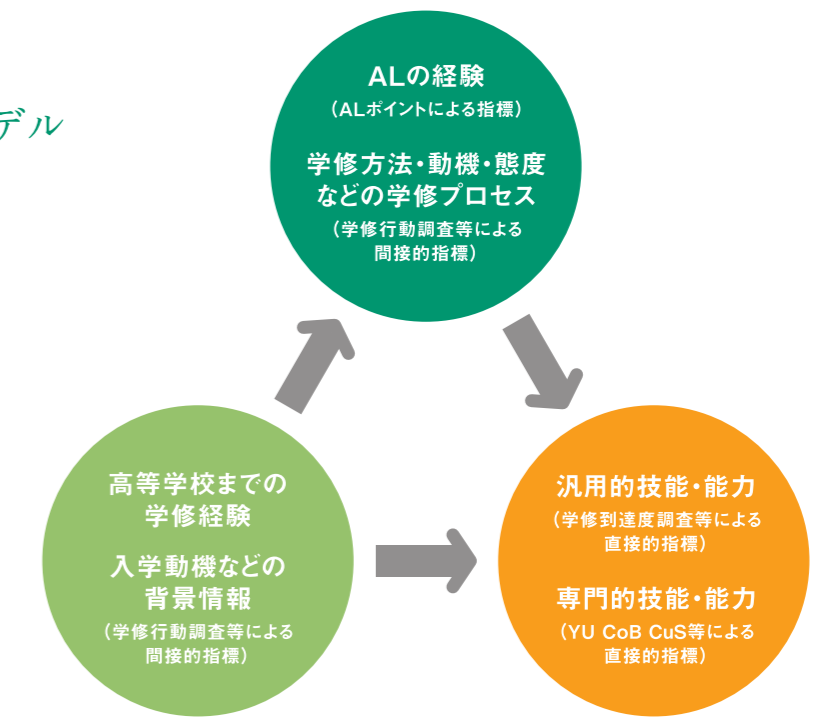
AL(アクティブ・ラーニング)ポイントとは、ALの6つの形態「グループワーク」「ディスカッション・ディベート」「フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)」「プレゼンテーション」「振り返り」「宿題」に設定されているAL度から算出されます。各科目におけるALポイントをシラバスに明示し、履修の参考にする事で、アクティブ・ラーニングを通した学生の主体的な学びを促進することを趣旨としています。

テーマIIの実績

直接評価・間接評価統合分析モデル

山口大学では、YU CoB CuSや学修到達度調査等による学生の学修成果に関する直接的指標や、学修行動調査等による学修成果や学修プロセスの間接的指標や背景情報、履修してきた授業のALポイントや授業評価(満足度や理解度など)といった学修経験の指標など、学生の学修に関わる複数の指標を蓄積しております。

これら複数の指標を部局を超えて統合し、一人ひとりの学生と紐づけ、統計的分析のモデル(右図)を構築したうえで分析を進めています。これにより、学修成果を可視化することに加え、どのようなALの経験をした学生ほど、あるいはどのような学修プロセスをとっている学生ほど、それぞれの学習成果を伸ばす傾向にあるのかを検討することが可能になります。そこから今後の教育改善に資する情報を得ることを目指しています。

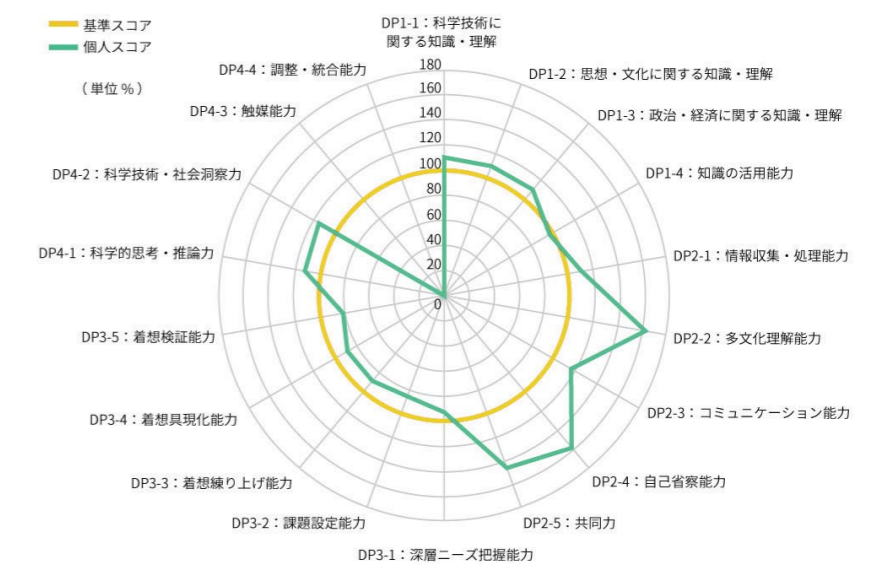


新しいカリキュラムシステム YU CoB CuS

新しいカリキュラムシステムYU CoB CuS(山口大学能力基盤型カリキュラムシステム:Yamaguchi University Competency-Based Curricular System)は、ディプロマ・ポリシー(以下、DP)として設定した当該学部の卒業時に修得しているべき能力に基づき、その各々の能力をどの程度修得しているかを定量的に示すものです。

このシステムを利用することにより、DPと各授業科目の位置づけが明確になり、修得した能力が可視化され、学生は自分の達成度をリフレクションするとともに、教員によるアドバイジングを受け、自律的に自らの学修プランを立案できる仕組みを取り入れています。

平成27年度に新設された国際総合科学部ではこのシステムを導入しており、上記のような学生のリフレクションや教員によるアドバイジングの機会を定期的に設けているほか、DPの基準スコアを卒業要件として厳格な質保証を目指しています。今後、各学部・研究科の特色や事情に応じながら、YU CoB CuSの全学的導入を目指しています。



【直接評価と間接評価】 Direct Assessment & Indirect Assessment

直接評価とは、学生の知識や技能などの表出から学修成果を直接的に評価すること(何が出来るか)です。テストやレポート、卒業研究などによる評価がこれに該当します。一方、間接評価とは、学修行動や学修成果についての学生の自己報告から学修成果を間接的に評価すること(何が出来るかと思っているか)です。学生調査などのアンケート項目などによる評価がこれに該当します。



Event

【イベント紹介】

アクティブ・ラーニングを推進するFD・SDワークショップを開催

PBL授業設計のツボを学ぶ

平成28年7月8日(金)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)FD・SDワークショップ「アクティブ・ラーニング授業開発ワークショップPart1—PBL(Project-Based Learning)授業設計のツボを学ぶ—」が、学内外から合計54名(学内教職員23名、学生1名、学外教職員28名、学生2名)の参加者を集めて、本学吉田キャンパス総合図書館アカデミックフォレストにて

開催されました。

福田 隆真 副学長(教育学生担当)より開会挨拶があった後、第一部では、辻 多聞 学生支援センター 講師から学生発案型のPBL学習について、続いて山田 和人 同志社大学 文学部 教授より「同志社大学におけるPBL授業設計と学修評価」と題して事例報告がありました。第二部では、山田教授のファシリテーションにより、マンダラートシートを使用し参加者一同がアイデア出しのメソッドを体感しました。



サービラーニングの授業設計と学修評価のポイントを学ぶ

平成28年10月31日(月)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)FD・SDワークショップ「アクティブ・ラーニング授業開発ワークショップPart2—サービラーニングの授業設計と学修評価のポイントを学ぶ—」が、学内外から合計37名(学内教職員19名、学生2名、学外教職員16名)の参加者を集めて、本学吉田キャンパス総合図書館アカデミックフォレストにて開催されました。

福田 隆真 副学長(教育学生担当)より開会挨拶があった後、第一部では、橋爪 孝夫 山形大学 教育開発連携支援センター 講師より山形大学におけるサービラーニングの実践の紹介と、安溪遊地 山口県立大学 国際文化学部 教授より山口県立大学における地域共生授業の紹介がありました。第二部のグループワークセッションでは、参加者が授業設計や学修評価に関する疑問点をグループワークで整理し、講演者から回答を頂く形式を取り、活発な議論が展開されました。



共育ワークショップ2016

平成28年9月26日(月)に、【学生FDサミット・イベント企画】共育ワークショップ2016「みんなで大学の教育(共育)について語ろう!」を本学総合図書館アカデミックフォレストにて開催し、56名(学生26名、教職員13名、職員17名)が参加しました。今回は、平成29年3月に、本学にて「学生FDサミット2017春」を開催するためイベントを兼ね山口県立大学や島根県立大学の学生も加わって開催されました。冒頭、岡 正朗 学長より開会挨拶があり「FD活動は全国の大学に広がっている。いろんなアイデ

アを出し合い近未来の大学教育をどうするか、楽しく建設的に議論してほしい」と述べられました。

ワークショップでは、木野 茂氏(元立命館大学 教授)と平野 優貴氏(法政大学 キャリアセンター職員)による基調対談が行われ、FD活動に携わる事になったきっかけや、学生FD活動について紹介がありました。

その後のグループワークでは、林 透 大学教育センター 准教授と平野氏のファシリテーションにより「学生FDサミット2017春をプロデュースしてみよう」と題して、グループ

ごとにアイデアを出し合い特徴ある提案が発表されました。



AP事業成果発表ジョイントフォーラム2016

平成28年3月14日(月)、山口市小郡のYIC Studioにおいて「AP事業成果発表ジョイントフォーラム2016—山口・広島地区大学教育再生プログラム(AP)採択校の成果発信—」を開催し、学内外から約100名が参加しました。事業開始2年目を迎えた今回のフォーラムは、山口・広島地区のAP採択校の成果を広く社会に発信するとともに、各採択校同士が情報交換する事で、高等教育の更なる発展につなげることを目的として開催されました。

始めに、岡 正朗 学長が「フォーラムを通じて、今後のAP事業の更なる推進につながる機会になることを願っている」と挨拶し、続いて辻 邦章 文部科学省 高等教育局大学振興課 大学改革推進室 専門官からの来



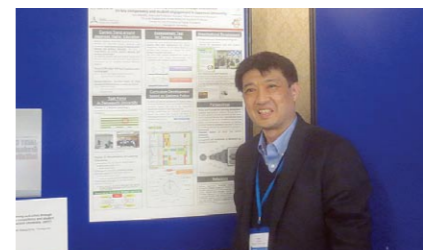
賓挨拶では「入学から卒業まで、質保証を伴った高等教育を実現するための各大学の取り組みが、より強力になることを期待したい」と、本フォーラムに対する期待の言葉が述べられました。続いて、関田 一彦 創価大学教育・学生支援センター長・教授による「ラーニングコミュニティにおける学生の『学び』とは～アセスメント科目の設定と効果～」と題した基調講演が行われました。その後、山口・広島地区の5つの採択校から各校の取り組みにおける成果報告がありました。

後半には、「アクティブ・ラーナー、リフレクティブ・ティーチャーであるために」と題した協同学習ワークショップが行われ、教員と学生それぞれの立場から活発な意見交換がなされました。

YU-AP事業の成果発信と情報交流進む!

YU-AP事業では、学内の教育改革だけでなく、AP採択機関間の情報交流、さらには、我が国の高等教育全体における質保証、高大接続改革に貢献すべく、積極的な情報発信に努めることを重要な使命と考えています。本学の取組に関心を示し訪問調査を受ける機会も多く、平成26年度以降、国立大学1機関、公立大学1機関、私立大学6機関、さらには日本私立学校振興・共済事業団からの訪問調査を受けています。また、平成27年には金沢大学や京都光華女子大学・短期大学部での話題提供、広島修道大学や大分大学でのアクティブ・ラーニングに関するFD・SD研修会講師を務めたほか、国内外での学会等を通じた成果発表を行っています。イギリスの権威ある学会SRHE(Society for Research into Higher

Education)のNewer Researchers Conference 2016では、日本の大学教育改革と学修成果可視化の取組事例として山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)を紹介し、その成果について発表を行いました。さらに最近では、高大接続等の観点から、山口県内の高等学校、総合教育支援センターなどの研修会講師依頼を受けるケースが増え、アクティブ・ラーニングに関する教授・学修法を通じた相互交流を進めています。



Editorial Note

【編集後記】

山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)は、アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化の促進、そして、教員・職員・学生が協働するFD・SDワークショップを展開しています。最近では、YU-AP推進室からクリッカーやタブレット機器、アクティブ・ラーニング教室の利用促進について発信しています。平成27年度後期の授業からの利用事例が出てきており、クリッカーやタブレット機器を活用した教員・学生双方での意思疎通を通じた授業は、まさにアクティブ・ラーニングのグッド・プラクティスであるといえるでしょう。また、学生間の意見交換を容易にする学修環境として、可動式の机・椅子が導入されているアクティブ・ラーニング教室が有効に活用されています。



今後の山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)が発信する情報やこれまでの取り組みについては、本事業ホームページにて積極的に発信されています。YU-APIに関する最新情報はホームページを是非ご覧ください。URL: <http://www.yuap.oue.yamaguchi-u.ac.jp/>

Staff

【YU-AP 事業推進スタッフ】

- 林 透 (大学教育機構大学教育センター 准教授)
- 斎藤 有吾 (大学教育機構大学教育センター 助教(特命))
- 河口 美由紀 (学生支援部教育支援課 事務補佐員)
- 森重 孝代 (学生支援部教育支援課 事務補佐員)
- 奥田 真也 (経済学部4年)
- 西尾 翔太 (経済学部4年)
- 藤坂 勇汰 (経済学部4年)
- 古谷 晃一 (農学部4年)
- 古谷 涼 (人文学部4年)
- 江角 寛 (経済学部3年)
- 福井 一輝 (工学部3年)
- 川井 希恵 (国際総合科学部2年)
- 須藤 亜莉 (国際総合科学部2年)
- 岡 寛範 (経済学部1年)
- 新里 加偉 (理学部1年)
- 田中 大智 (工学部1年)
- 増田 雅也 (国際総合科学部1年)